

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0772500401		
法人名	医療法人社団 小野病院		
事業所名	医療法人 小野病院 グループホーム ラポール		
所在地	福島県耶麻郡北塩原村北山地蔵堂2904 (電話) 0241-21-1633		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.6.25	評価確定日	H20.7.25

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	860 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1		要介護2		2 名	
要介護3	3 名	要介護4		4 名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団小野病院及び松崎歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、会津盆地を一望に見下ろせる高台にあり、近くには役場や学校があり自然環境と生活環境に恵まれた地域の一角に位置している。ホーム内の空間も広くゆったりとしており、利用者の表情も明るく、職員との関係も良い印象を受けた。地域とのつながりも良好で、ホームではきめ細やかな利用者本位の介護サービスを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者と一緒に食事を楽しめるように、利用者の好みを聞いて、メニューを作ったり利用者と職員と一緒に食事する等、改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価用紙を配布して、記入してもらい、管理者がそれをまとめた。さらにもう一度、全員で話し合いを行う等の取り組みを行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	前回の外部評価の取り組みを期待したい内容にあった、設置規定に基づき運営推進会議を2ヶ月に1回開催することや、委員の構成メンバーに地元町内会代表や、家族、利用者の参加がまだ行われていない。今後さらに、会議のあり方について検討の必要がある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には、訪問時や来所時、または電話等で意見、要望等を気軽に話してもらえるようにしている。また、クリスマス会や芋煮会等の行事の前に、職員と家族が話し合える機会を作っている。そこで出された意見や要望等は、ミーティングにおいて話し合い運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加し、地域の文化祭やお祭り等の催し物に利用者が参加したり、町内の方がホームを訪れ太鼓を披露したり、地域との関係作りが良好である。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、理念に地域の中で馴染みの人との関係が継続でき、その人らしい暮らしの支援や、利用者、家族、地域住民、職員が共に支え合う等職員全員で話し合い、理念を上げていく。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、朝の申し送り等において理念について話しをしており、また日常業務の中でも理念の大切さを伝え、職員の意識付けに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の文化祭やお祭り、敬老会等の催し物に、利用者と共に参加をしたりしている。町内の方がホームを訪問し、太鼓を披露したり、地域との関係づくりや交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員全員に自己評価票を配布し、日常取り組んでいる介護の見直しや、振り返りの機会として記入してもらった。さらにその上で管理者がまとめ、もう一度全員で話し合う等前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回の外部評価の取り組みを期待したい内容にあった、ホームの設置規定に基づく運営推進会議の2ヶ月に1回の開催や、会議の構成メンバーに地元町内会代表や、家族、利用者の参加がまだ行われていない。今後の会議のあり方について、検討中である。</p>		<p>運営推進会議は、サービスの実際や評価への取り組み内容等について、関係者に説明し地域の理解や支援を得る為の貴重な機会である。利用者の家族や関係者に、意義や役割を十分に理解して参加いただけるよう働きかけてほしい。</p>
6	9				
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への金銭出納の報告は、領収書を添えて毎月行っている。また、ホームの行事や利用者の生活の様子等、担当からメッセージを添えたホーム便りと一緒に、定期的に送付している。職員の異動についても、ホーム便りに掲載し家族に知らせている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には、訪問時、来所時、電話等で、意見、要望等、気軽に話しをしてもらえるようにしている。また、クリスマス会や芋煮会等の行事の前に、家族と話し合える機会を作っており、出された意見や要望等はミーティングで話し合い運営に反映している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は、馴染みの関係を作るため、基本的に行わないようにしているが、やむを得ず異動になった場合は、同じ法人で、認知症について理解している職員が異動するようにしている。異動についてはホーム便り等で家族に知らせ、理解を得るようにしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の勉強会を開催しており、外部で行われる研修にも積極的に参加するようにしている。研修後は、ミーティング等で、報告を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入している。さらに近隣の市町村にあるグループホームとネットワークをつくり、課題を持ち寄り勉強会等を行っている。近隣市町村にあるホームとは、音楽会等を通じて、交流の機会を作っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	郷土料理や野菜作り等を教えてもらっている。生活の中では、職員が利用者をいたわり、利用者は職員を励ます場面等があり、共に支え合う関係を築くとともに、笑いや喜びを共有している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知介護研究・研修東京センター方式を使い、ケース記録等に利用者の行動、言動、様子、気持ち、スタッフの気づき、対応等を記入し、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知介護研究・研修東京センター方式を活用し、利用者の思いや生活歴、家族の意見等に基づいて、全員で経過観察、介護内容の検討会議を行い、利用者が地域でその人らしい生活を継続していくための介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月ごとの介護経過表による経過観察と、三ヶ月ごとの見直しを職員全員で行っている。状態変化があれば、そのつど家族に報告し、要望を取り入れながら、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、利用者、家族に希望の確認を行い、特に希望やかかりつけ医がない場合は、ホームの協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意を得ている。家族が同行できない場合は、職員が通院介助も行っているおり、受診結果の共有も行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについて職員間で、できること、できないことについて、話し合いを行ったことがあるが、家族と主治医との話し合いは行われていない。		利用者、家族、医師を交え、終末期に向けた対応方針について話し合いを行った上で決めてほしい。また、利用者、家族の希望に沿った支援をしてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、日常的にプライバシーを損ねない言葉かけに注意することを申し送り等で職員に話している。個人情報については、金庫等に保管する等の配慮をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の思いや、気持ちを尊重し、無理に押し付けず、一人ひとりのペースを大切にしている。また、調理の手伝いなどを見守りながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、調理、食事の盛り付け、片付けは、利用者と職員が、和気あいあいと一緒にを行うようにしている。職員も利用者と同じ食事を談笑しながら楽しんでいる。また利用者の好みによりメニューを出したりするなど配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することが可能で、主に午後が入浴の時間帯となっている。また、一番風呂に入りたい人等、利用者の希望に沿った支援をしている。今のところ夜間入浴の希望はないが、遅番の勤務時間内であれば可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりが、日常生活の中で食事作り、片付け、掃除などの役割を果たすようにしている。楽しみごととして食事や買い物に出かけたりしている。気晴らしとしては、利用者の友人がゲートボールに誘いに来て、近くのグラウンドまで、一緒に見学に行ったりするなど、利用者の好きなどころに外出できる機会を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎日、食材の買い物や散歩に出かけたりしている。希望により、墓参りや知人の家まで、お茶のみに連れて行ったりするなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動を把握し、鍵をかけることなく自由な生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年二回実施しており、そのうち夜間想定訓練は一回行っているが、消防署の協力を得ていない。消火器の使い方については、実際の消火器を使って実施している。しかし、地域の人々に対する協力を得られるよう働きかけを十分に行っていない。		避難訓練は、消防署と連携を図りながら実施してほしい。さらに、地域住民、地域の消防団の災害時の協力について働きかけを行ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を、毎日チェック表に記入している。普通食の食事が摂取が困難な人へは、おかゆや刻み食等の食事を提供している。また、年1回は、協力病院の栄養士の協力を得ながら、栄養バランス、カロリーを考えた献立を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、広い食堂で圧迫感を感じさせず、ゆったりとした空間を作っている。食堂には、季節の花が飾られており、季節感の取り入れにも配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や椅子、洋服ハンガー等が持ち込まれているが、本人の持ち込み品が全体的に少なく部屋全体が閑散としている。		認知症の利用者にとって、使い慣れた物や思い出の品が居室にあることで、心がなごみ安らぐことを家族へ伝え、居心地の良く過ごせる居室づくりを家族とともに行ってほしい。

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ラポール

記入担当者名 高橋 美保

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。